

# 2018年度活動報告

## フランス文学教室／フランス語圏文化論教室

### 1. フランス文学教室の活動

〈2018年〉

4月4日 フランス語圏文化論教室オリエンテーション（学部・大学院合同）

7月26日 第1回修論・卒論中間報告会

8月16日 修論公開審査

10月22日

セミナー「古代文学における「プロトレプティコス（推奨）」というジャンル」

講師：ソフィー・ヴァン・デル・メーレン（レンヌ第2大学教授）

会場：首都大学東京 南大沢キャンパス5号館504室

主催：首都大学東京教員交換支援制度

10月23日

講演会「なぜ哲学者にならなければいけないのか？ アリストテレス『哲学のすすめ』」

講演者：ソフィー・ヴァン・デル・メーレン（レンヌ第2大学教授）

司会：ジョスラン・グロワザール

会場：首都大学東京 南大沢キャンパス 国際交流会館・中会議室

主催：首都大学東京教員交換支援制度

10月25日 翻訳ワークショップ

第一部「哲学における「プロトレプティコス（推奨）」のギリシア語テキスト（アリストテレス、イアンプリコス）」

第二部「哲学における「プロトレプティコス（推奨）」のラテン語テキスト（アウグスティヌス）」

講師：ソフィー・ヴァン・デル・メーレン（レンヌ第2大学教授）

会場：首都大学東京 南大沢キャンパス5号館504室

主催：首都大学東京教員交換支援制度

11月5日

講演会「ポール・クローデルと〈象徴〉の詩的=靈的体系:聖母マリア、教会、聖書」

講演者:ドミニック・ミエ=ジェラルド(パリ・ソルボンヌ大学教授)

司会・通訳:大須賀沙織

会場:首都大学東京 南大沢キャンパス 特別会議室

主催:首都大学東京人文科学研究科フランス文学教室、2018年度首都大学東京傾斜的研究費(若手奨励研究費)研究課題「フランス文学における聖母マリア崇敬とその表象—ギュイヨン夫人、パルザック、クローデルを中心に—」

共催:ポール・クローデル生誕150年記念企画委員会 後援:(公財)日仏会館

11月29日 第2回修論・卒論中間報告会

12月19日

講演会「梓組みの蘇生:現代日本映画におけるゾンビの形象」

講演者:カリム・シャレディブ(レンヌ第2大学准教授)

コメント:正清健介、須藤健太郎/司会:西山雄二

会場:首都大学東京 南大沢キャンパス 特別会議室

主催:平成30年度首都大学東京・傾斜的研究費ミニ研究環「フランス・レンヌ第二大学との日仏比較文化論の共同研究」

〈2019年〉

2月7日 修論・卒論公開審査

## 2. 修士論文・卒業論文題目一覧

### 修士論文

ナバロ・ディビッド・セルジュ「東京、パリ、ニューヨークの三都市における鉄道網の発展比較——東京の電車・地下鉄はモデルになれるか」

シルヴァ・ソニア「日本とフランスのナショナル・アイデンティティーの形成と外国人二世・移民の子どもの帰属意識」

鈴木麻純「ボードレールの「他処 (ailleurs)」における「匂い/香り」の諸機能」

## 卒業論文

井堀花香「クレオールから見えてくるもの—パトリック・シャモワゾーを中心に—」

大山紗苗「ストラスブール大聖堂を巡って—多角的視点から探る大聖堂の魅力—」

浅井義宏「『一夜かぎり』(原題*Point de lendemain*)」

新井実里「言語から見るフランスとイギリスの関係」

佐藤理沙「フランスから学ぶ考える力を養う教育」

堀部美妃「ヨハネ福音書における7つのしるしについて」

田中恭平「メヌ・ド・ビランの『習慣論』における運動機能の向上と人間の能動性との関係」

直井つばさ「ヴェイヤーレにおける寢室の表象」

吉田あんず「フランスの教会建築と民家一人々の生活と地域性を探る—」

山本樹「オスマニザシオンによるパリの变化とその影響」

森美帆「『アレックス3部作』に見るレオス・カラックスの愛と夢世界」

## 3. 教員・大学院生の研究活動

(書籍、論文、翻訳、学会発表など)

## 藤原真実

[論文]

「『宗教についての異議』と「神聖なる商売」をめぐる対話——シャルル、ボシュエ、シモン」、『人文学報』515-15号、2019年3月、209-240頁。

[翻訳]

ソフィー・ヴァン・デル・メーレン「なぜ哲学者にならなければいけないのか? ——アリストテレス『哲学のすすめ』」、『人文学報』515-15号、2019年3月、139-161頁。

## 西山雄二

[書籍]

児玉善仁ほか編『大学事典』、平凡社、2018年。執筆項目 = 「人文学」「一般教育」「ディシプリン」「労働市場と大学」「デリダ」。

*DERRIDA – LEVINAS. An Alliance Awaiting the Political. Une alliance en attente de politique*, Edited by Orietta Ombrosi and Raphael Zagury-Orly, Mimesis, 2019. Yuji Nishiyama « Politiques du mensonge chez Derrida et Levinas », pp. 179-191.

〔論考〕

「パリ、五月革命の残光」、『週刊読書人』2018年6月15日（第3243号）／6月22日（第3244号）／6月29日（第3245号）／7月6日（第3246号）、2018年5-6月。

« Hantologie de Fukushima », *TERRAIN*, octobre 2018, <https://blogterrain.hypotheses.org/11259>

「六八年五月から遠く離れて——五月の出来事を記念する」、『人文学報』151-15号、2019年3月、5-24頁。

〔学会発表〕

発表« La pensée et la représentation du nucléaire : entre *Godzilla* et *Shin-Godzilla* », Université Rennes 2, 6 avril 2018 / INALCO, 7 mai 2018.

発表 “The Intercultural Translation between Chôra and “Ma”: Derrida’s visits to Japan”, *Derrida Today* 2018, Concordia University, Montreal, 23-26 June 2018.

主催・発表 « Les enjeux politico-philosophiques du séminaire La peine de mort », Journée d’étude : Jacques Derrida, La peine de mort, INALCO, 27 juin 2018.

発表« Le propre de l’homme et la déconstruction de la mort : autour de Jacques Derrida, Séminaire : La peine de mort », XXVIIe Université d’été de l’Association Jan Hus « Homme nouveau, homme ancien : autour des figures émergentes et disparaissantes de l’humain », Banská Štiavnica (Slovaquie), 1-6 juillet 2018.

発表「フランスの大学改革と哲学教育」、哲学プラクティス学会第1回大会、2018年8月26日。

招待発表「フランスの大学改革と68年5月の記憶——人文学におけるアーカイヴの使命」、一橋大学、第4回先端課題研究18、2018年9月19日。

招待発表« Thought and Representation of Nuclear Energy in Japan: Comparative Analysis of the Films *Godzilla* (1954) and *Shin Godzilla* (2016) », International Symposium “Nuclear (power), a Scientific and Philosophical Question from 1945 to Today”, Sapienza University of Rome, 24 September 2018.

主催・司会：カリム・シャレディブ「枠組みの蘇生——現代日本映画におけるゾンビの形象」、首都大学東京、2018年12月19日。

主催・司会：ヨアン・モロ「人新世におけるカタストロフィのドラマトゥルギー」、慶應義塾大学（三田）、2019年1月25日。

トークセッション「人文学と平和」、国立人文研究所 KUNILABO 3周年イベント、さくらホール（国立市）、2019年2月3日。

司会「亀井大輔『デリダ 歴史の思考』合評会」、立命館大学、2019年3月16日。

発表 « Le rire consacré aux dieux : la mémoire de l'idiot au Japon », Université Rennes 2, 22 mars 2019 / INALCO, 25 mars 2019.

講演 « La pensée et la représentation du nucléaire : entre *Godzilla* et *Shin-Godzilla* », Université de Strasbourg, 27 mars 2019.

〔その他〕

書評「鈴木道彦『私の1968年』」、『ふらんす』2019年1月号、69頁。

「翻訳原稿作成に関する覚書」、『人文学報』515-15号、2019年3月、285-292頁。

ジョスラン・グロワザール

〔発表〕

« La notion de relation et l'ordre du monde chez le philosophe néoplatonicien Simplicius », Université Rennes 2, 4 mars 2019. (予定)

« Les quatre problèmes de la relation dans la philosophie grecque », en collaboration avec le département de philosophie de l'Université Rennes 1, Université Rennes 2, 5 mars 2019. (予定)

« Mélange et hybridité. Histoire des concepts de diversité », Université Rennes 2, 7 mars 2019. (予定)

大須賀沙織

〔論文〕

「バルザックにおける聖母マリアの出現」、『人文学報』515-15号、2019年3月、241-264頁。

## 〔翻訳〕

ドミニック・ミエ＝ジェラルール「ポール・クローデルと〈表徴〉の詩的＝靈的体系——おとめマリア、教会、聖書」、『人文学報』515-15号、2019年3月、163-179頁。

須藤健太郎

## 〔論考〕

「同期の快楽——『犬ヶ島』によせて」、『ユリイカ』6月臨時増刊号（総特集＊〈決定版〉ウェス・アンダーソンの世界）、第50巻第7号、2018年6月、32-40頁。

「マヤは誰を演じているのか?」、『ユリイカ』9月号（特集＊濱口竜介）、第50巻第12号、2018年9月、65-72頁。

「映画は疑問符のなかに——「不純な映画のために」再読序説」、『アンドレ・バザン研究』3号、2019年3月。（予定）

## 〔口頭発表〕

コメント：カリム・シャレディブ講演会「枠組みの蘇生——現代日本映画におけるゾンビの形象」、首都大学東京、2018年12月19日。

「「不純な映画のために」の仮想敵」、アンドレ・バザン生誕100周年記念イベント「映画とアダプテーション——アンドレ・バザンを中心に」、山形大学、2018年12月20日。

« La transformation photogénique de la Zone : Tarkovski, Marker et Suzuki Takuji », Université Rennes 2, 22 mars 2018. (予定)

## 〔その他〕

「ルネ・クレマン『禁じられた遊び』（あらすじ・作品解説・監督紹介）」、Blu-ray『禁じられた遊び』封入ブックレット、KADOKAWA、2018年5月、全12頁。

「ルネ・クレマン『雨の訪問者』（あらすじ・作品解説・監督紹介）」、Blu-ray『雨の訪問者』封入ブックレット、KADOKAWA、2018年5月、全12頁。

「ルネ・クレマン『パリは霧にぬれて』（あらすじ・作品解説・監督紹介）」、Blu-ray『パリは霧にぬれて』封入ブックレット、KADOKAWA、2018年5月、全12頁。

「ルネ・クレマン『狼は天使の匂い』（あらすじ・作品解説・監督紹介）」、Blu-ray『狼は天使の匂い』封入ブックレット、KADOKAWA、2018年5月、全12頁。

「「新刊紹介『映画を撮った35の言葉たち』」、『REPRE』33号、2018年6月、

<https://www.repre.org/repre/vol33/books/editing-multiple/tokuchi/>

「新刊紹介『エリー・フォール映画論集 1920-1937』」、『REPRE』33号、2018年6月、  
<https://www.repre.org/repre/vol33/books/translation/sudo/>

「ルイ・マル『さよなら子供たち』（あらすじ・作品解説・監督略歴）」、Blu-ray『さよなら子供たち』封入ブックレット、KADOKAWA、2018年7月、全12頁。

「ルイ・マル『地下鉄のザジ』（あらすじ・作品解説・監督略歴）」、Blu-ray『地下鉄のザジ』封入ブックレット、KADOKAWA、2018年7月、全12頁。

「クロード・シャプロル『気のいい女たち』（あらすじ・作品解説・監督略歴）」、Blu-ray『気のいい女たち』封入ブックレット、KADOKAWA、2018年7月、全12頁。

「一緒に生きた、その記録となるように」、『つかのまの愛人』劇場用パンフレット、コピアポア・フィルム、2018年8月、12-17頁。

「朝子の微笑み」、『NOBODY』47号、2018年9月、26-27頁。

「ジャック・バッケル『怪盗ルパン』（あらすじ・作品解説・監督略歴）」、Blu-ray『怪盗ルパン』封入ブックレット、KADOKAWA、2018年11月、全12頁。

「そしてドキュマンの氾濫はアタラント号にいたる」、「ジャン・ヴィゴ監督特集」劇場用パンフレット、IVC、2018年12月、6-13頁。

「ロングショットのメロドラマ」、『アッバス・キアロスタミ Blu-ray BOX I』封入ブックレット、TCエンタテインメント、2018年2月、12-15頁。

「シネトラクトせよ！」(訳・解題)、『人文学報』515-15号、2019年3月、131-137頁。

「ゾンビは群舞の再発明をうながす」、『人文学報』515-15号、2019年3月、199-202頁。

〔翻訳〕

「新千歳空港国際アニメーション映画祭2018」(字幕翻訳)、主催：新千歳空港国際アニメーション映画祭実行委員会、会場：新千歳空港国際ターミナルビル、2018年11月2日-5日。

カリム・シャレディブ「枠組みの蘇生——現代日本映画におけるゾンビの形象」、須藤健太郎、八木悠久訳、『人文学報』515-15号、2019年3月、181-197頁。

ジャック・ランシエール『映画の寓話』、中村真人・堀潤之監訳、角井誠、柿並良佑、土田環、須藤健太郎訳、インスクリプト、2018年3月。(予定)

〔講演等〕

「フィリップ・ガレル『つかのまの愛人』（作品解説）」、横浜シネクラブ「第21回カイエ・デュ・シネマ週間：フィリップ・ガレル特集」、東京藝術大学（横浜・馬車道校舎）、2018年5月26日。

「ジャン・ヴィゴ『新学期・操行ゼロ』『アタラント号』（作品解説）」、ゴーモン映画～映画と共に歩んできた歴史～、アンスティチュ・フランセ東京、2018年6月14日。

「モーリス・ピアラ『私たちは一緒に年をとることはない』（作品解説）」、ゴーモン映画～映画と共に歩んできた歴史～、アンスティチュ・フランセ東京、2018年7月22日。

「オリヴィエ・アサイヤス『夏時間の庭』（作品解説）」、シネリセ（中高生向け映画講座）、アンスティチュ・フランセ東京、2018年9月8日。

「トマ・サルヴァートル『ヴァンサンには鱗がない』（作品解説）」、シネリセ（若者向け映画講座）／交差する視点 日仏インディペンデント映画特集、アンスティチュ・フランセ東京、2018年12月9日。

「クレール・ドゥニ『レット・ザ・サンシャイン・イン』（作品解説）」、カイエ・デュ・シネマが選ぶフランス映画の現在、ユーロスペース、2018年12月15日。

「永遠のジャン・ヴィゴ！～伝説の天才映画作家をめぐって」（中原昌也、小野正嗣と共同）、ジャン・ヴィゴ監督『アタラント号』公開記念上映&トークイベント、アテネ・フランセ文化センター、2018年12月21日。

大江倫子

〔学会発表〕

「デリダ『嘘の歴史』を読む——来るべき真理のための予備考察」、日本哲学会研究大会、神戸大学、2018年5月19日。

「初期デリダにおけるハイデガーの遺産相続——『グラマトロジーについて』と超越論的真理」、日本現象学会第40回研究大会、東京大学、2018年11月17日。

岡部杏子

〔論文〕

「マルスリース・デボルド＝ヴァルモールとクリスティアニズム：『哀れな花』（1839）におけるマリアの表象をめぐる」、『女性空間』、日仏女性研究学会、第35号、2018年6月、72-82頁。

「マルスリース・デボルド＝ヴァルモールにおける夢とうつつの風景：『未刊詩集』（1860）を中心に」、『象徴主義と風景—ボードレールからブルーストまで』、坂巻康司、廣田大地、津森圭一、立花史編、水声社、2018年10月、55-79頁。

「ソフィ・カル『ダブル・ゲーム』試論」、『Héliogramme 2018』、学習院大学人文科学研究所、2019年3月刊行予定。

〔発表〕

「女性が詩を書くこと：19世紀フランスの詩人マルスリース・デボルド＝ヴァルモールを中心に」、神奈川大学人文学研究所共同研究グループ 講演会「各国近代文学の研究」、神奈川大学、2018年7月13日。

「マルスリース・デボルド＝ヴァルモールにおける鳥」、シンポジウム「フランス文学と鳥」、慶應義塾大学、2018年11月25日。

〔翻訳〕

Sublime, « J'aime la poésie », 「ふらんす」、白水社、2018年4月-2019年3月、毎号

IWATANI Jûro, « Gustave Boissonade et son pays d'adoption », traduit du japonais par Chris Belouad et Kyôko Okabe, *Dossier Historiens Géographes « Figure des échanges franco-japonais au XIX<sup>e</sup> siècle »*, Association des Professeurs d'Histoire et de Géographie, novembre 2018, no 444, pp. 150-154.

〔雑誌記事〕

「現代フランス語圏の女性作家カミーユ・ロランズ」、『女性情報ファイル』第127号、日仏女性研究学会、2018年2月、9頁。

「« P = Poésie 「詩」 」、『特集「フランス語、どこで学びますか？ フランス語のABC abécédaire de la langue française』、『ふらんす』、白水社、2018年4月号、24頁。

書評：『コルバンが語る幻の女たち』（アラン・コルバン『処女崇拜の系譜』、山田

登世子、小倉孝誠訳、藤原書店、2018年)、「ふらんす」、白水社、2018年10月号、69頁。

書評：「〈ベルばら〉ファン、垂涎の書」(ファー『マリー・アントワネットの暗号：解読されたフェルセン伯爵との往復書簡』、ダコスタ吉村花子訳、河出書房新社)、「ふらんす」、白水社、2018年12月号、68頁。